

| 2. 事業の目的と概要 | |
|----------------|---|
| (1) 事業概要 | <p>当事業は、対象地域のすべての幼稚園・小学校の教師や親の能力強化・啓発およびインフラ整備を通して、少数民族の子どもたちの幼稚園から小学校への円滑な移行を促し、学習環境の改善を目指す。</p> <p>当事業は、第1期、第2期には幼稚園・小学校の教師の能力強化、親や地域住民を巻き込んだ学校を支援する地域ネットワークづくりに取り組んだ。また第2期では、「教師間の学びあい」の質の向上に向けたツールの作成を開始した。第3期では、引き続き教師の能力強化および地域ネットワークづくりを行い、同ツールを完成・普及させる。また、子どもにやさしいインフラ環境の整備も継続する。</p> <p>-----</p> <p>This project aims to improve learning environment and to encourage smooth transition of ethnic minority children from pre-school to primary school through capacity building of pre-school and primary school teachers and parents as well as construction of infrastructure.</p> <p>In the first year and the second year, the project worked on capacity building of pre-school and primary school teachers, establishment of local network of parents and local people to support schools. It also began to create tools to improve the quality of “New Professional Teacher Meeting (New PTM)” in the second year. In the third year, it is going to continue capacity building of the teachers, local networking and establishment of child-friendly infrastructure, and to complete and disseminate the tool of New PTM.</p> |
| (2) 事業の必要性（背景） | <p>(ア) 事業実施国における一般的な開発ニーズ ベトナム経済は近年著しく成長しているが、その陰で国民の格差が拡大している。特に少数民族が多く住む北部山岳地帯や中部高原地帯は、その他の地域と比べて貧困率が高い。このような経済格差には、少数民族地域の教育の質の低さが密接に関わっている。少数民族の子どもも多くは、小学校を卒業してもベトナム語での読み書きができず、学力が低い。このことは、子どもたちの中高等教育への進学を阻み、将来の職業の選択肢を狭めて収入向上を妨げている。当事業は、このような問題の解決に向け、少数民族地域の教育の質の改善を目指す。</p> <p>(イ) 申請事業の内容（事業地、事業内容）となった背景 当事業は、少数民族の割合と貧困率が高くと高く、疎外されている地域を対象とする。北部ライチャウ省シンホー郡の貧困率は29.9%、中部コントウム省コンブロン郡は31.5%と全国平均6.0%に比べて非常に高い。ともに少数民族の比率も高く、シンホー郡は91.7%、コンブロン郡は84.9%に上る。（参考資料1. 対象地域基礎データ）</p> |

少数民族の子どもの多くは、父母が民族の言葉しか話せず、家では公用語であるベトナム語を学ぶ機会がない。子どもたちは幼稚園で初めてベトナム語を学ぶことになる。幼稚園でのベトナム語教育は、少数民族のベトナム語習得および小学校での教育効果を大きく左右するが、現在幼稚園で行われているベトナム語教育の質は低い。そのため、子どもたちは基礎的なベトナム語も習得できないまま卒園している。小学校では、教師のほとんどはキン族（ベトナムの主要民族）で子どもたちとコミュニケーションが取れず、授業はベトナム語のみで行われるため、授業についていけない子どもが続出する。

これらの状況から、対象地の幼稚園・小学校の教育現場では、特に次のような問題が顕著であり、小学生の留年や退学が多さにつながっている（初等教育の対象年齢である6～11歳の子どものうち10%、387人が小学校に通っていない）。

- ・学習環境が劣悪（特に分校の教室や衛生・給水設備、図書不足）
- ・教育の質が低い（少数民族の子どもたちを対象にしたベトナム語教育、教師主体の授業）
- ・「教師間の学びあい」が授業の改善に十分につながっていない
- ・幼稚園と小学校の連携不足
- ・親の理解・協力不足

上記の状況を改善すべく、第1期および第2期前半では、主に以下の事業内容を実施し、成果を上げた。

① これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果）

- ・各種教師トレーニングを実施し、433人の教師が参加。指導法を改善する教師が増え、子どもたちはペア学習により互いの問題の解き方を比べて分からないところは教え合うなど、以前より授業に主体的に参加するようになった。
- ・トレーニング後、基幹小学校11校が平均で月1回以上の教師間の学びあい公開授業を実施。教師は授業観察で以前より子どもの学びに注目し、授業についていけない子どもがどこで躓いたのかを分析し、適切なサポート方法を考えるなど、自らの指導法について改善を試みる教師が増えた。
- ・各種教師トレーニングを通して、対象2省の教師が他省の先行事例やお互いの経験から学びあい、改善策を提案しあう姿勢が見られるようになった。
- ・対象9コミュニティの幼稚園と小学校に児童用図書を支給した。これにより、5,560人の園児・児童が楽しみながらベトナム語を学ぶことができる環境が整った。
- ・ワークショップにて、支援対象地の教師・保護者・地域のリーダーら計285人が幼稚園と小学校の連携強化および教育環境の改善ための行動計画を策定。その後着手されている。例えば、幼稚園から小学校への円滑な進学のため、年長児（5歳児）による小学校1年生学級の訪問が実施され、年長児一人ひとりの特徴をまとめた情報が幼稚園から小学校へ伝達された。また、保護者会にて

| | |
|--------------|--|
| | <p>小学校進学のために必要な準備について共有がなされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国統一のカリキュラムに関し、少数民族地域の習慣・文化に沿った内容に対応した指導内容に調整する試みが、教育訓練局の協力のもと対象小学校で行われるようになった。 ・学習環境が劣悪であった分校3校に、新たに計7教室と衛生設備を建設し、計124人の園児・児童が安全で快適に学べるようになった。 <p>②これまでの事業を通じての課題・問題点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種のトレーニングの定着度合が、教師や学校によって異なる。 2. 翌年以降の教育訓練局による学校への支援方針が明確になっていない場合があり、建設支援対象校の選定が難しい。 3. 建設対象校の子どもたちの間で、トイレや手洗いなど衛生習慣が徹底されていない。 4. 各基幹校に多数の分校があるため、1校あたりの児童図書が少なく、また子どもの年齢や知識に応じた種類の児童図書が不足している。 5. 事業成果のモニタリング評価に関し、コアチーム内での理解が不足している。 <p>③上記②に対する今後の対応策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定着度が比較的低い学校が高い学校から学べる機会を確保しつつ、当団体の職員や教育専門家による直接指導を強化する。 2. 当団体と行政との情報共有を密にするよう努める。 3. 学校による衛生教育の充実化を促す。 4. 継続して様々な分野・難易度の児童図書を提供する。 5. 年間計画ワークショップ内で、コアチームに対してモニタリング方法を再度指導する。 <p>●「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連性</p> <p>SDGsの目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」のターゲット4.1、4.2、4.5、4.a、4.cの達成に寄与している。</p> <p>●外務省の国別開発協力方針との関連性</p> <p>重点分野(中目標)(2)脆弱性への対応では、成長の負の側面に対処すべく、社会・生活面の向上と貧困削減、格差是正を図る支援が重視されている。当事業も、この方針と方向性を共有する。</p> <p>●「TICAD VIにおける我が国取組」との関連性</p> |
| (3) 上位目標 | 教育環境の整備を通じて、ライチャウ省、コントウム省の少数民族の子どもたちが質の高い幼稚園・小学校教育を受けられるようになる。 |
| (4) プロジェクト目標 | ライチャウ省シンホー郡とコントウム省コンブロン郡の計9コミュニティのすべての幼稚園・小学校において、教師や親の能力強化・啓発および教育環境の整備を行う。これらを通して、少数民族の子どもた |

| | |
|----------|--|
| | ちにとって効果的なベトナム語教育が行われ、幼稚園から小学校への円滑な進学が促進される。 |
| (5) 活動内容 | <p>1. <u>幼稚園・小学校の教師の能力強化</u> 【対象：教師約400人】 <u>(参考資料2. 教師トレーニングリスト)</u> 幼稚園と小学校それぞれに形成した教師および各省・郡の教育訓練局職員らからなるコアチームのメンバーを引き続き育成する。コアチームメンバーは専門家からトレーニングを受けた後、トレーナーとなって学校レベルの現地研修を行う。また、日常的に授業観察を行い、授業内容や子どもの学びを継続して確認するとともに教師への技術サポートを行う。</p> <p>1. 1 年間計画ワークショップ (対象：幼稚園・小学校) 対象校の校長や教師、各省・郡の教育訓練局職員、提携団体であるプラン・インターナショナル・ベトナム職員の当事業への参加を促進し、より良い計画をつくることを目的に行う。また、成果を図るモニタリングにコアチームの協力を得ることから、彼らに指標やモニタリングの方法などの説明も行う。幼稚園・小学校のコアチームメンバーを対象に、事業開始時に行う。</p> <p>1. 2 教師間の学びあいトレーニング (対象：小学校) 「教師間の学びあい」は、小学校教師が授業観察力や学びあいのスキルを向上させ、自分たち自身で授業の質を継続して改善していける状況を作り上げることを目的に行う。トレーニングは、日本人教育専門家を派遣して、小学校のコアチームを対象に2回行う。また、第1期に支給したビデオで授業を撮影した後、第2期に支給したプロジェクターとスクリーンを使って映写し、議論を行う。</p> <p>さらに、ベトナム人教育専門家を対象地域に派遣し、学校レベルでの現地研修を各郡で2回ずつ行う。</p> <p>1. 3 児童参加型授業トレーニング (対象：小学校) 少数民族の子どもの理解を助け、学習効率を上げるため、児童参加型授業を促進する。小学校のコアチームを対象に国語教科に特化したトレーニングを1回ずつ各省で行う。トレーニングに参加した教師は、後日各校にて児童の授業理解を促進するための補助教材を製作し、活用する。</p> <p>1. 4 ベトナム語教育トレーニング (対象：幼稚園、小学校) 第2言語としてのベトナム語教育を改善することを目的として行う。ベトナム人教育専門家を対象地域に派遣し、現地研修を対象地域の幼稚園および小学校の各基幹校で1日ずつ実施する。さらにそこで見られた共通の課題について改善点を探るため、幼稚園および小学校のコアチームを対象にしたトレーニングを各郡で2回ずつ行う。</p> <p>1. 5 カリキュラム調整ワークショップ (対象：小学校) ベトナム語の習得に困難を抱える少数民族の児童の現状にあわせて、</p> |

2018年に導入される見込みの全国統一の新カリキュラムの内容を調整する。ワークショップは、1・2年生の全教師を対象に各郡で1回ずつ行う。

2. 教師間の学びあいツールの作成

2014年度よりベトナム全国の小学校に導入された新しい「教師間の学びあい」の質の向上に継続して取り組み、少数民族の児童に適した教育制度づくりに貢献する。

2.1 教師間の学びあいガイドラインの普及

教師間の学びあいを実施する上で参考となる、実践的ガイドラインと補完教材となる事例紹介ビデオを作成する。上述の年間計画ワークショップでは、対象校の教師にガイドラインのドラフトを共有し、活用方法を指導する。その後、教師からのフィードバックをもとに修正を重ね、完成したガイドラインを配布用に印刷する。

2.2 教師間の学びあい拡大ワークショップ

当事業のインパクトを拡大し、持続発展性を高めることを目的に対象各省で行う。コアチームからは教師間の学びあいの取り組みについて、ベトナム人専門家からは完成したガイドラインについて、当事業の対象外の近隣郡の教育訓練局職員や学校長などに対して紹介し、広範囲での普及を図る。

2.3 事業成果確認ワークショップ

当事業の成果を振り返り、学びを事業終了後や当事業の対象外の省での活動に活かすことを目的に行う。コアチーム、教育訓練省職員、他省の教育訓練局職員を主な対象とし、事業終了時にハノイで開催する。

3. 学校を支援する地域ネットワークづくり 【対象：約300人】

3.1 地域教育推進ワークショップ（対象：幼稚園、小学校）

幼稚園・小学校の連携を促進し、学校を支援する地域活動を促進することを目的に行う。第1期に教育推進委員会が策定した子どもの教育環境の向上に向けた行動計画づくりの実施状況を振り返り、計画を見直す。ライチャウ省では各基幹校（5校）で、コントウム省では各コミューン（5コミューン）で1回ずつ実施。ワークショップ後、教育推進委員会は行動計画を実行に移す。

4. 子どもにやさしい教育環境の整備 【対象：子ども約5,500人】

4.1 教室建設および教室備品の支給（対象：幼稚園、小学校）

6教室の建設および備品支給を行う。ライチャウ省シンホー郡ナムカン小学校の2教室と教員室、カンティ2幼稚園の2教室、コントウム省コンプロン郡ダクチュン幼稚園の2教室と教員室を建設する。いずれの対象校も現在木造で雨風を十分に防げず、子どもたちにとって安心・安全な学習環境となっていない。

| | |
|----------------------------|--|
| | <p>(参考資料 3. 教室建設対象校の状況、4. 対象地域の写真)</p> <p>4.2 衛生・給水設備・食堂の設置 (対象：幼稚園、小学校) 前述の建設対象校のうち、ナムカン小学校とダクチュン幼稚園の2校において、男女別トイレと給水設備を設置する。カンティ2幼稚園は小学校トイレを共有するため、給水タンクのみ設置する。それぞれの対象校で、教師・子どもに使い方や維持管理を指導する。また、カンティ2幼稚園とダクチュン幼稚園には、調理室・食堂を設置し、子どもたちが衛生的な環境で食事をとれるようにする。</p> <p>4.3 図書の支給 (対象：小学校) 子どもたちが読書を通してベトナム語力を向上させ、知識を豊かにできるよう、すべての基幹小学校(11校)に児童用図書を支給する。</p> <p>裨益人口 直接裨益人口：6,115人(対象9コミュニティの幼稚園・小学校に通う子ども、幼稚園・小学校教師、教育訓練局職員、教育推進委員会に参加する保護者を含む地域住民) 間接裨益人口：26,877人(対象9コミュニティの全人口)</p> |
| <p>(6) 期待される成果と成果を測る指標</p> | <p>1) 幼稚園・小学校の教師の能力強化 教師トレーニングへの参加を通して教師の能力が向上し、より少数民族の子どもに適した参加型の授業が行われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教師間の学びあい公開授業の実施回数： 全基幹小学校で公開授業が実施され、授業観察や教師間の学びあいを通して、継続して授業の質が改善される(第3期：7回)。 ● 教師間の学びあいの質を向上させた教師の割合： コアチームメンバーが、授業観察後の教師間での議論で、子どもの学びについて適切に議論を進行することができるようになる(第3期：100%)。 小学校教師が授業内容や子どもの学びについて積極的に意見交換をするようになる(第3期：全254人のうち90%)。 ● 子どもが授業に参加する機会を増やした教師の割合： 小学校教師が、グループ学習やペア学習など授業での子どもの参加機会を増やす(第3期：全254人のうち95%)。 ● ベトナム語授業の内容を改善した教師の割合： 幼稚園・小学校教師が、ベトナム語授業を少数民族の子どもに適した内容に改善する(第3期：全395人のうち90%)。 幼稚園教師が、ベトナム語授業の中で週に3冊以上の児童用図書の読み聞かせを行う(第3期：全141人のうち100%)。 ● 読書推進活動を実施した学校数： 小学校で子どもを中心とする読書推進活動が実施される(第3期：全基幹校および分校)。 ● カリキュラムを調整した小学校教師の割合： 小学校の1・2年生担当教師が、ベトナム語習得に困難を抱える少数 |

民族の児童現状にあわせて、全国統一カリキュラム内容を調整する
(第3期:カリキュラム調整ワークショップへの参加が見込まれる教師120人のうち100%)。

【確認方法】

- ・ 教師間の学びあい議事録
- ・ 活動のモニタリング結果
- ・ 授業計画
- ・ トレーニング報告書および参加者リスト

2) 教師間の学びあいツールの完成・普及

「教師間の学びあい」の質の向上のためのツールが完成し、対象地およびその他の地域で少数民族の児童に適した授業の参考として活用される。

- 「教師間の学びあい」の実践的ガイドラインおよびビデオ：
教師間の学びあいを実施する上で参考となる、実践的ガイドラインと補完教材となる事例紹介ビデオが完成し、ガイドラインが印刷される。

対象地域の全小学校や教育訓練局、事業対象としなかった他地域の教育訓練局などにも同実践的ガイドラインが配布され、ワークショップ内で活用方法について紹介がなされる。

【確認方法】

- ・ ガイドライン
- ・ ガイドラインの配布リスト
- ・ ワークショップアジェンダおよび参加者リスト
- ・ 事業終了後のガイドライン活用状況のモニタリング

3) 学校を支援する地域ネットワークづくり

教育推進委員会が各地で教育推進のための活動を展開し、幼稚園から小学校への円滑な移行を促す幼稚園・小学校間の連携強化、教育に対する親の理解・協力の向上につなげる。

- 教育推進活動を行った委員会メンバー数：
教師や保護者からなる教育推進委員会が、子どもの教育環境の向上に向けた活動を各地で展開する（第3期：331人）。

- 教育推進活動を行ったコミュニケーション数：
教師や保護者からなる教育推進委員会が、子どもの教育環境の向上に向けた活動を各地で展開する（第3期：9コミュニケーション）。

【確認方法】

- ・ 地域教育推進ワークショップの議事録
- ・ 教育推進のためのアクションプラン

4) 子どもにやさしい教育環境の整備

教室・衛生施設の整備や図書支給を通して、幼稚園・小学校の学習環境が改善され、子どもたちの学習効率が向上する。

| | |
|-----------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 安全な教室で授業を受ける子どもの数： 第3期対象3校で現在0人→ 137人 ● 学校で適切な衛生・給水設備を使う子どもの数： 第3期対象3校で現在0人→ 137人 ● 学校図書を活用する子どもの割合： 小学校児童が、週に1冊以上の児童用図書を読む（第3期：全3,433人のうち100%）。 <p>【確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング ・教師インタビュー ・子どもの聞き取り調査 ・建築物や配布図書の写真 |
| (7) 持続発展性 | <p>当事業終了後には、対象のすべての幼稚園・小学校において、少数民族の子どもにとって効果的なベトナム語教育が行われている状況を目指す。また、すべての小学校において、グループ学習やペア学習などの児童参加型授業が増え、日本の知見を活かした質の高い「教師間の学びあい」が継続して行われる。同事業により強化されたこれらのノウハウが、人事異動等により途切れてしまわぬよう、当事業の活動は各省・郡の教育訓練局とともに実施。事業期間後も「教師間の学びあい」のガイドラインを活用した自主的な取り組みを促す。さらに、供与された学校施設および教室備品が事業終了後も有効活用されるために、行政機関および学校関係者が適切な維持管理体制を敷くよう留意する。提携団体であるプラン・インターナショナル・ベトナムは、当事業終了後も教育訓練局と連携し、各校の状況をモニタリングする。</p> <p>さらに、これらの取り組みを他の少数民族地域に普及させるべく、「教師間の学びあい」の実践ガイドラインやビデオは、教育訓練省に活用を働きかける。プラン・インターナショナル・ベトナムが活動する他の少数民族地域では、各省・郡の教育訓練局や各校にも活用を直接働きかける。また、事業終了後も地域住民を主体とする教育推進活動が継続されるよう、住民参加を促しつつ、対象地域の自治体や学校に働きかけを行う。</p> |